



令和6年10月11日

埼玉県信用保証協会

さいたま市大宮区桜木町1-7-5

ソニックシティビル11階

『令和6年度上期 事業実績』の公表

令和6年度上期(令和6年4月～令和6年9月)の事業実績を、以下のとおり公表します。

《令和6年度上期 事業実績》

	件 数 (前年同期比)	金 額 (前年同期比)
保 証 承 諾	11,643 件 (103.9%)	1,872 億円 (102.6%)
保 証 債 務 残 高	110,971 件 (94.3%)	1 兆 2,443 億円 (91.4%)
代位弁済(元利)	798 件 (86.8%)	90 億円 (87.4%)

保証承諾について

令和6年度上期の保証承諾は11,643件、1,872億円で、前年同期に比して件数で440件増加(前年同期比103.9%)、金額で48億円増加(前年同期比102.6%)した。

保証承諾の実績について、第1四半期は物価高騰の影響が長期化する中、令和6年3月から4月にかけて新型コロナウイルス感染症対応資金(以下、「ゼロゼロ融資」)の返済開始を迎える中小企業・小規模事業者が集中していたこと、「伴走支援型保証制度」が令和6年6月30日をもって受付終了となることから、同制度を活用して資金繰りの安定を図るべく、駆け込みでの申込みが集中し、第1四半期の保証承諾金額は902億円(前年同期比113.7%)となり、前年度を上回る保証承諾となった。

一方、第2四半期は「伴走支援型保証制度」の駆け込み申込みの反動で保証申込が減少。これに伴い第2四半期の保証承諾実績は970億円(前年同期比94.1%)となり、前年度を下回った。

上期の保証承諾は「伴走支援型保証制度」を活用した借換に取り組んだことで中小企業・小規模事業者の資金繰りの安定を図ることができたものと捉えている。

保証債務残高について

令和6年9月末の保証債務残高は110,971件、1兆2,443億円で、前年同期より6,705件減少(前年同期比94.3%)、金額で1,172億円減少(前年同期比91.4%)した。

保証承諾は前年同期比で増加傾向にあるものの、「ゼロゼロ融資」の返済により、償還金額が保証承諾金額を上回ったため、保証債務残高は減少が続いている。

代位弁済（元利）について

令和6年度上期の代位弁済は798件、90億円で、前年同期に比して件数で121件減少（前年同期比86.8%）、金額で13億円減少（前年同期比87.4%）した。

令和3年度以降、代位弁済は件数・金額ともに増加を続けていたが、令和6年度上期は減少に転じた。これは、経済活動が正常化したことに伴う需要増加により、業績が回復した中小企業・小規模事業者が増加してきたこと、「伴走支援型保証制度」を活用した借換により資金繰りの安定が図られたことが要因であると分析している。

ただし、人手不足が懸念されている中での人材流出防止のための防衛的賃上げや、金利の上昇に伴う費用負担の増加、さらには今後の物価の動向など、先行きが不透明な状況が続くものと予測される。そのため、代位弁済のピークを越えたとは言い難く、今後の経済状況を注視しながら、引き続き資金繰りの安定や経営改善に向けた経営支援を行っていくことが重要であると捉えている。

今後に向けて

下期の経済環境は金利上昇に伴う返済負担の増加や人材流出を防止するための人件費増加、さらには物価の動向など見通しが不透明な状態が続くものと予測しており、中小企業・小規模事業者の資金繰りへの不安は続くものと捉えている。

「伴走支援型保証制度」の取扱いを終了したものの、経営あんしん資金（経営改善おうえん特例）などの借換制度を活用し、引き続き中小企業・小規模事業者の資金繰り支援に努めていくことはもちろん、人手不足に対処するための生産性や付加価値向上に取り組む中小企業・小規模事業者の資金需要を支援していく。

また、経営支援面では、中小企業・小規模事業者を訪問・面談して現状の把握と経営課題の整理・共有を行い、中小企業・小規模事業者の実情に応じた経営改善支援を提案していく。

こうした活動を通じて中小企業・小規模事業者の事業継続・発展に貢献していきたい。

《参考資料》

①直近2か年度の第2四半期までの保証承諾額

	令和6年度	令和5年度	前年比
第1四半期	902億円	793億円	113.7%
第2四半期	970億円	1,031億円	94.1%
上期合計	1,872億円	1,824億円	102.6%

